取扱説明書
（メルセデス・ベンツ編）

もくじ

ご使用になる前に....2

はじめに....3

安全にご利用になるために....4

診断機能....6

サービスリセット機能....7

≪サービスリセット　タイプ1の場合≫....12
≪サービスリセット　タイプ2の場合≫....15
■『National Version Factor』の詳細....20
■『オイル交換後の走行距離』の詳細....21
■『オイル交換後の日数』の詳細....22
■『最低オイルレベル警告』ボタンの詳細....23
≪サービスリセット　タイプ3の場合≫....24

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定機能....26

作業サポート機能....36

ご使用になる前に

はじめに.....3
安全にご利用になるために.....4

はじめに

ご使用になる前に

本取扱説明書では、メルセデス・ベンツ車の診断機能に関してご説明させていただきます。ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にお使いください。本体の基本的な操作は、本体の取扱説明書をご覧ください。

株式会社インターサポート

安全にご利用になるために

ご使用になる前に

■ 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。

■ 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。

⚠ 警告

- 走行状態でご使用になる場合には、必ず運転者、操作者の2人でご使用ください。操作に気を取られて事故につながる恐れがあります。
- アクティブテストはメルセデス・ベンツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテストは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）および、車両停止状態（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）で実行してください。

診断機能

サービスリセット機能 7

≪サービスリセット　タイプ1の場合≫ 12
≪サービスリセット　タイプ2の場合≫ 15
■『National Version Factor』の詳細 20
■『オイル交換後の走行距離』の詳細 21
■『オイル交換後の日数』の詳細 22
■『最低オイルレベル警告』ボタンの詳細 23
≪サービスリセット　タイプ3の場合≫ 24

SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定機能 26

作業サポート機能 36

サービスリセット機能

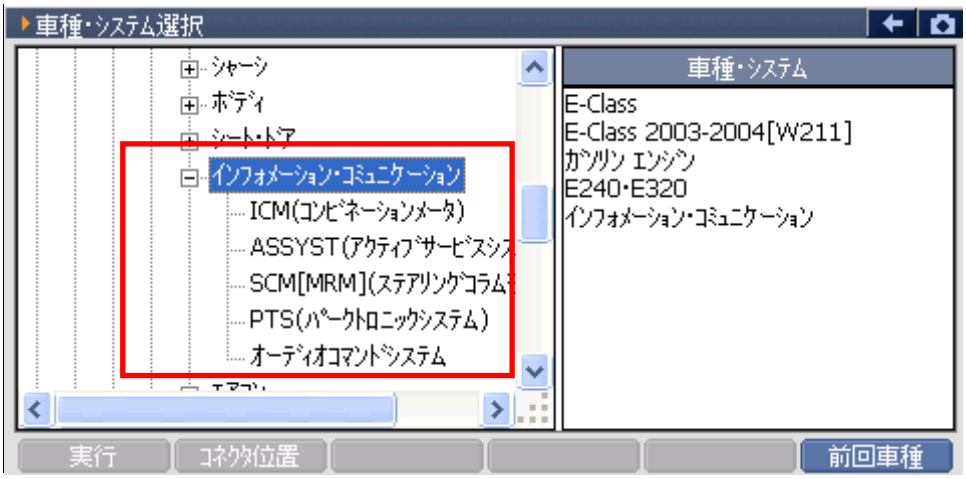
診断機能

警告

- サービスリセットはメルセデス・ベンツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- サービスリセットは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

1）サービスリセットでは、インストルメントクラスタに表示されるメンテナンス情報のリセットを行なうことが出来ます。

車種・システム選択画面にて『インフォメーション・コミュニケーション』を選択して ENTER ボタンを押してください。システムの詳細が表示されます。



〈図：車種・システム選択画面にてインフォメーション/コミュニケーションを選択〉

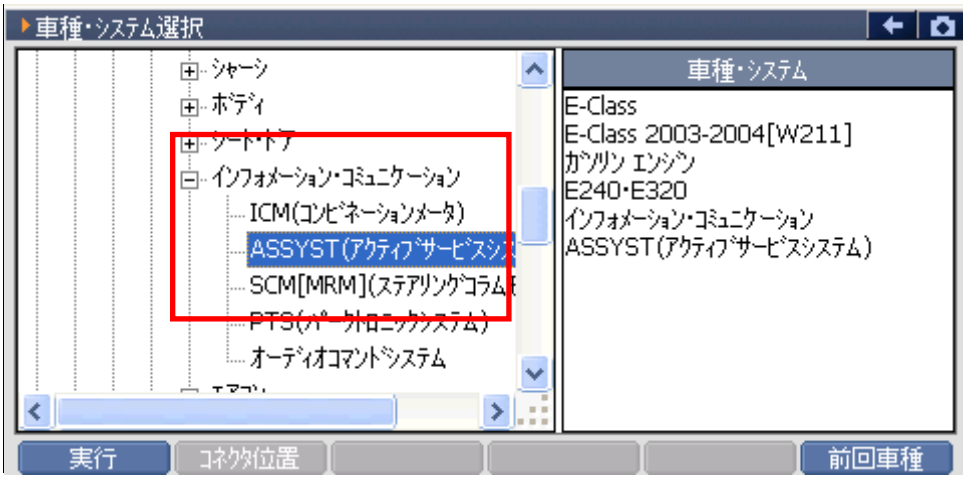
2）接続する車両によって、サービスリセットを行なうシステム名が異なりますので、

『ASSYST(ｱｸﾃｨﾌﾞｻｰﾋﾞｽｼｽﾃﾑ)』、『KI･ICM･KIL(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』または、

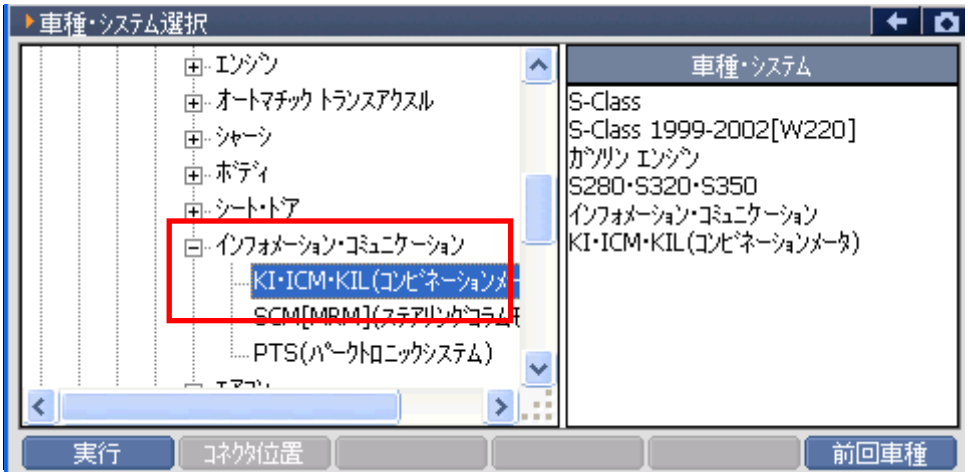
『ICM(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』を選択して ENTER ボタンを押してください。

通信が開始され診断メニューが表示されます。

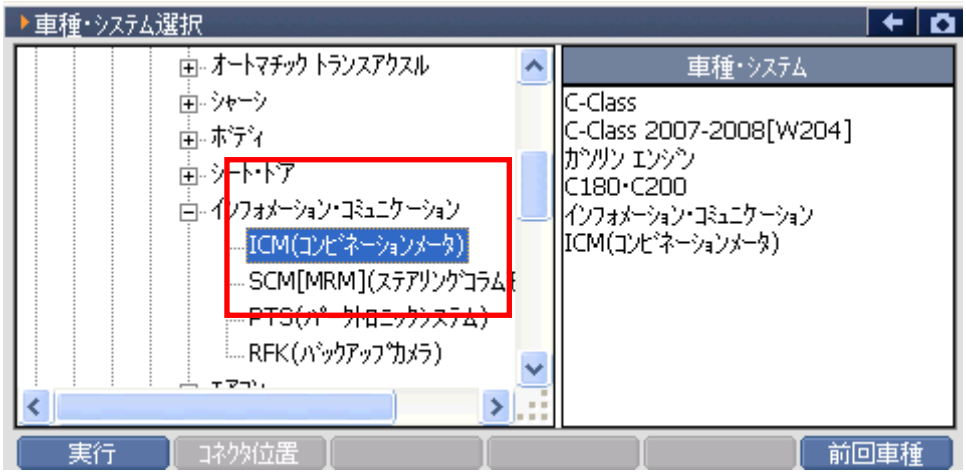
※上記のシステム名はどれか一つしか表示されません。



〈図：ASSYST（アクティブサービスシステム）選択画面〉

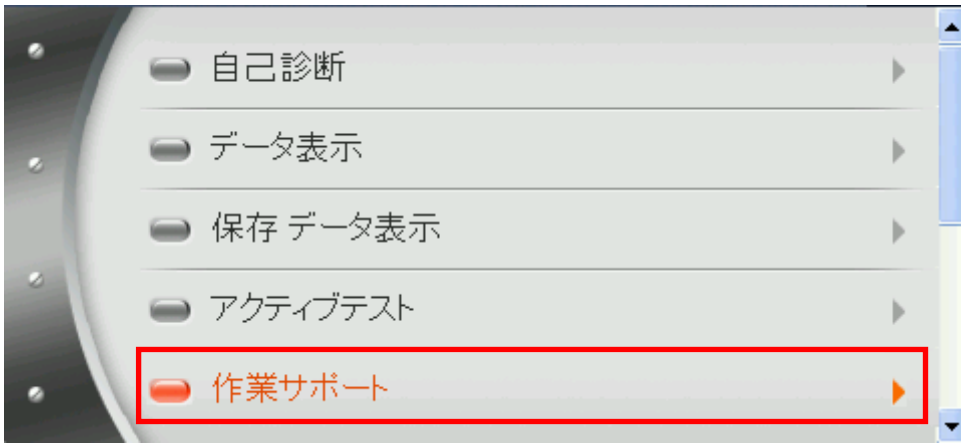


〈図：KI･ICM･KIL(コンビネーションメータ)選択画面〉



〈図：ICM(コンビネーションメータ)選択画面〉

3）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。

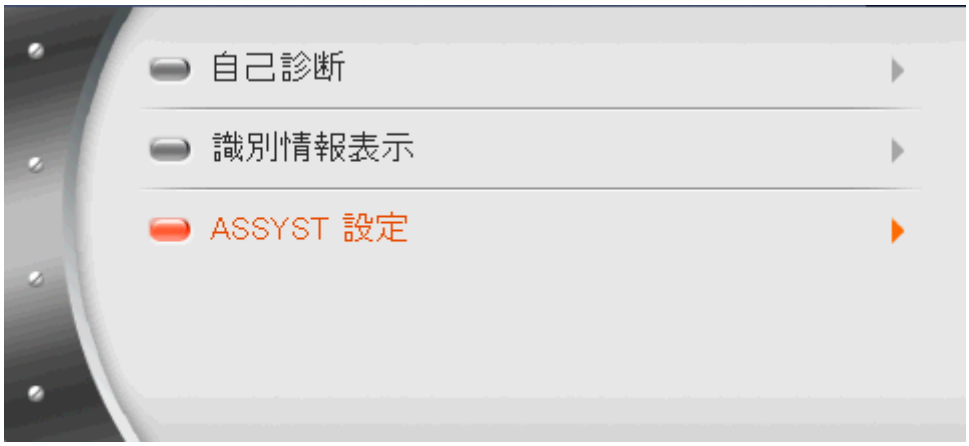


〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

※注意と補足※

・ 車種・システム選択画面で『ICM(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』を選択した場合は、上記の画面ではなく、下記の画面が表示されます。

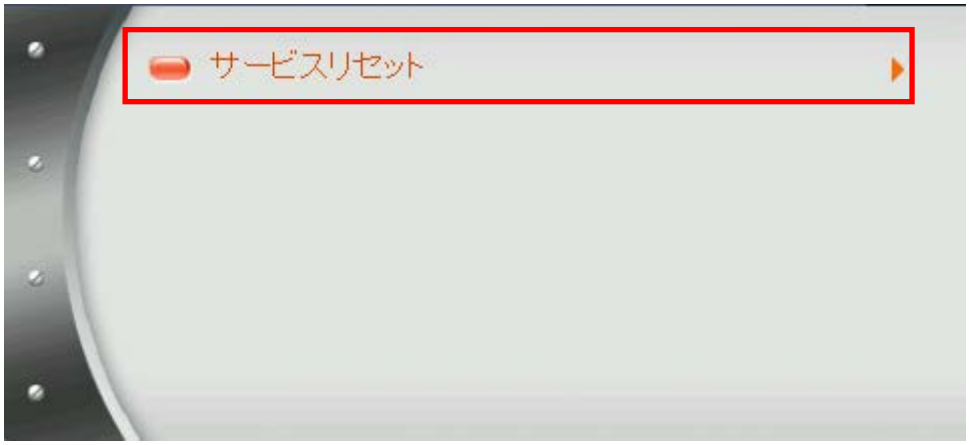
『ASSYST設定』を選択すると、タイプ3のサービスリセット画面に移ります。



4）『作業サポート』選択後の診断メニューにおいて『サービスリセット』を選択して

ENTER ボタンを押してください。サービスリセット画面が表示されます。

※車種・システム選択画面で『ICM(ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾒｰﾀ)』を選択した場合、この画面は表示されません。



〈図：診断メニューにてサービスリセットを選択〉

※注意と補足※

・ メルセデス・ベンツのサービスリセットには、タイプ1～3の3種類のタイプがあります。

タイプ1	サービスリセットのみが行えるタイプです。【詳細はP12を参照】
タイプ2	メンテナンス情報表示（設定）が行えるタイプです。【詳細はP15を参照】
タイプ3	サービスリセットのみが行えるタイプです。【詳細はP24を参照】

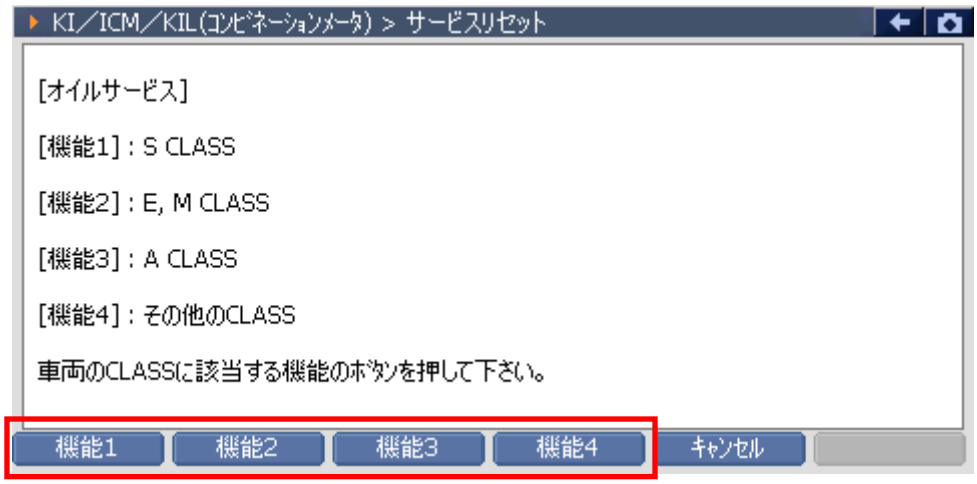
・ タイプの種類は接続車両（選択システム【詳細はP8を参照】）によって異なります。

KI･ICM･KIL(コンビネーションメータ)	タイプ1
ASSYST（アクティブサービスシステム）	タイプ1、タイプ2
ICM(コンビネーションメータ)	タイプ3

≪サービスリセット　タイプ1の場合≫

1）CLASS選択画面が表示されます。

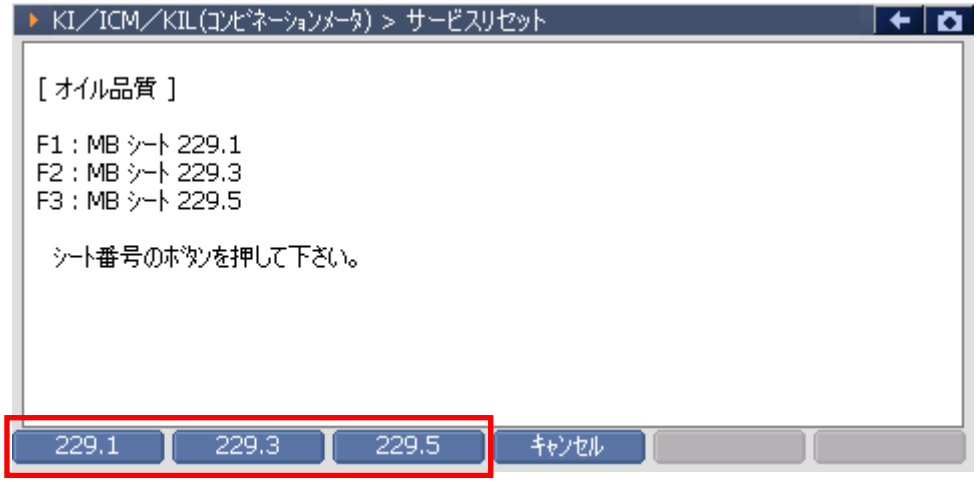
車両のCLASSに該当する機能ボタンをタッチしてください。



〈図：CLASS選択画面〉

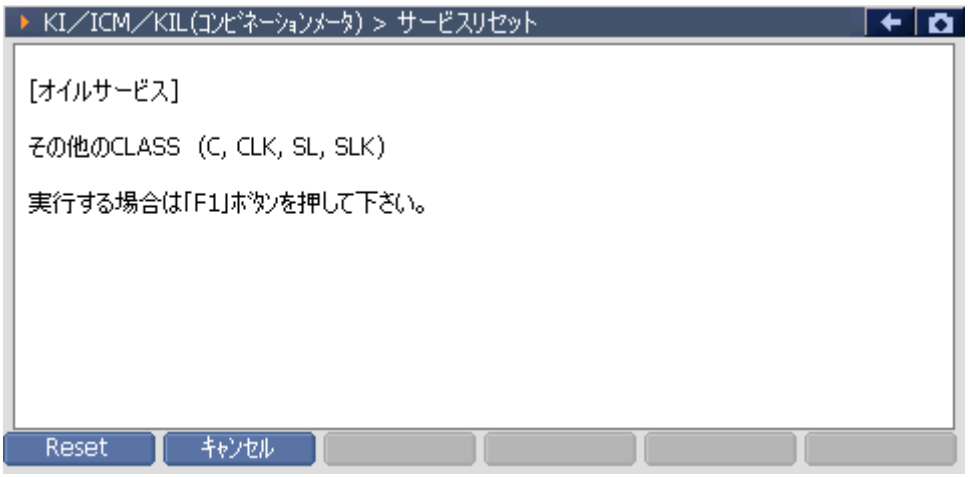
2）オイル品質選択画面が表示されます。

実際に交換したオイル品質に該当するボタンをタッチしてください。サービスリセットが開始されます。



〈図：オイル品質選択画面〉

その他のCLASS（機能4）を選択した場合は、オイル品質選択画面は表示されずに、サービスリセットの確認画面が表示されます。



〈図：リセット実行確認画面〉

※注意と補足※

- 指定したオイル品質にあわせて次回のメンテナンスランプ点灯までの走行距離が設定されます。

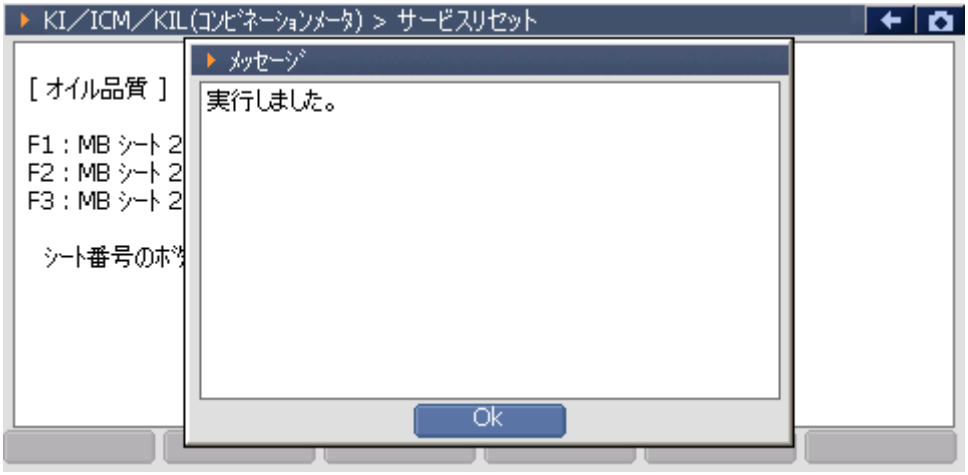
例） A160（WDB168.033）の場合

オイル品質	次回交換までの残り走行距離
MB シート 229.1、MB シート 229.3	15.000Km
MB シート 229.5	20.000Km

- シートとはメルセデス･ベンツが発行している『燃料油脂承認済みオイルリスト』のシート番号のことです。各シートにはメルセデス・ベンツにより承認された各オイルメーカーのオイルの製品名が記載されています。

  品質の高いほうからシート229.5→229.3→229.1の順になっています。

3）サービスリセットが正常に終了すると、『実行しました。』と表示されます。
CLASS指定が間違っていたり、または、サービスリセットが実行できない車両の場合には『実行できませんでした。』と表示されます。

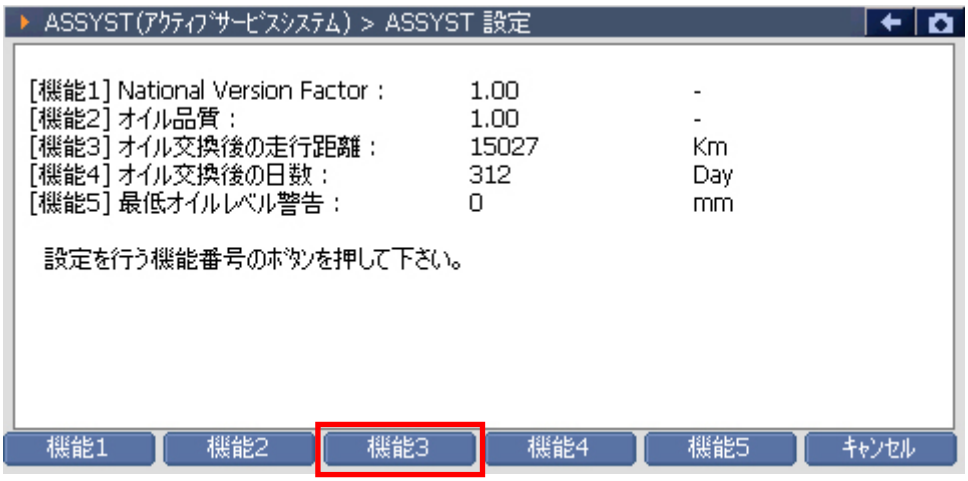


〈図：サービスリセット終了メッセージ〉

≪サービスリセット　タイプ2の場合≫

1）現在のメンテナンス情報（オイル品質やオイル交換後の走行距離など）が表示されます。

サービスリセットを行なうにあたり、オイル交換後の走行距離を「0 Km」に設定する必要がありますので、『オイル交換後の走行距離』に該当する機能ボタン（ここでは機能3ボタン）をタッチしてください。



〈図：メンテナンス情報表示画面〉

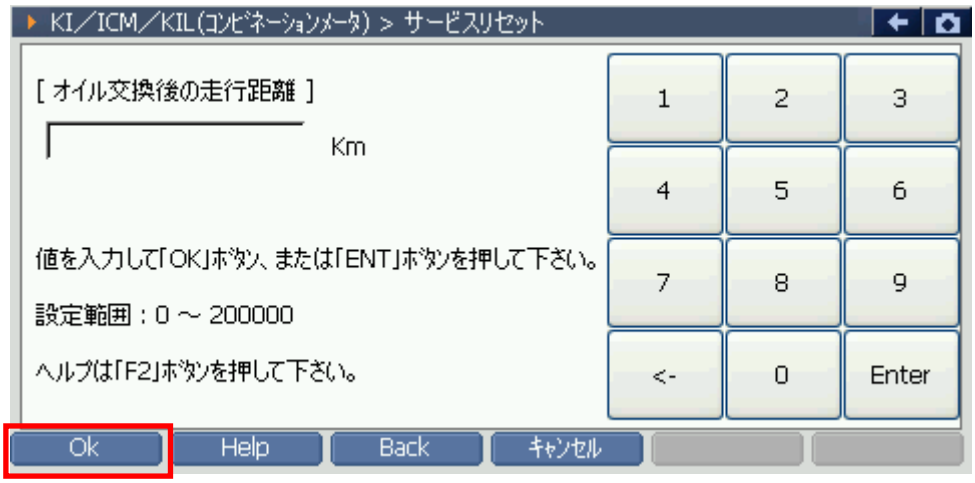
National Version Factor	メンテナンス間隔を設定します。【詳細はP20を参照】
オイル品質	オイル品質を表示しています。
オイル交換後の走行距離	前回オイル交換後から現在までの走行距離を表示しています。
オイル交換後の日数	前回オイル交換後から現在までの日数を表示しています。
最低オイルレベル警告	最低オイルレベル警告値を表示しています。【詳細はP23を参照】

※注意と補足※

- 『National Version Factor』は、接続する車両によっては表示されません。
- タイプ2ではサービスリセットを行なうにあたり、『オイル交換後の走行距離』と『オイル交換後の日数』を「0」に設定する必要があります。

2) オイル交換後の走行距離設定画面が表示されます。

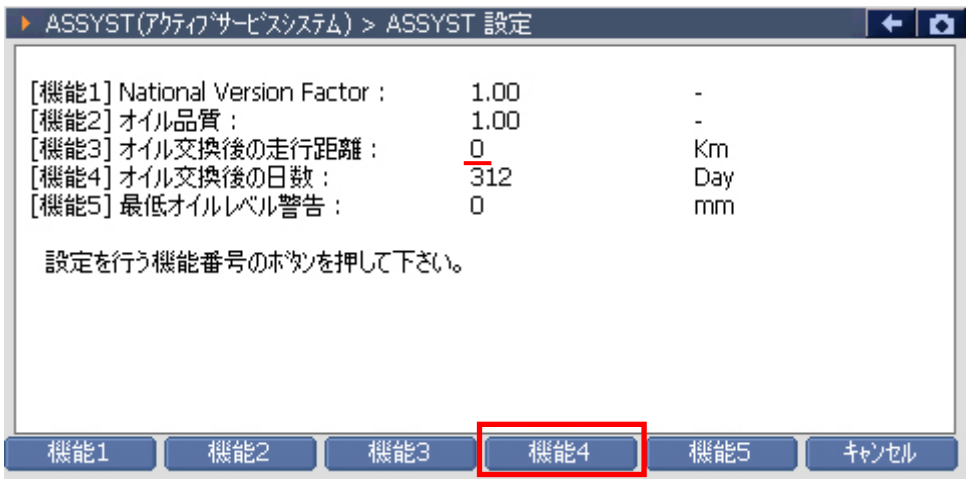
タッチパネルから「0」を入力し、Ok ボタン又は、Enter ボタンをタッチしてください。設定が反映され、メンテナンス情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の走行距離設定画面〉

3) 『オイル交換後の走行距離』が「0 Km」に変更されていることを確認してください。

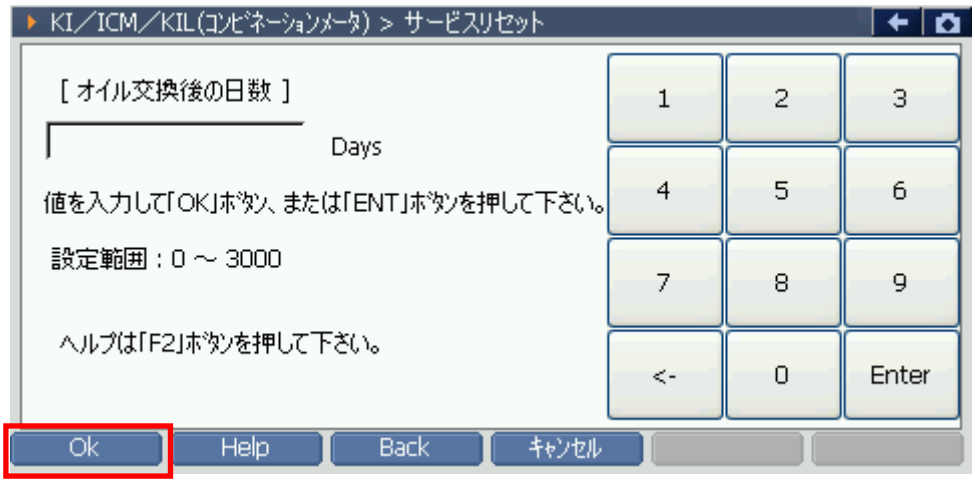
サービスリセットを行なうにあたり、オイル交換後の日数を「0 Day」に設定する必要がありますので、『オイル交換後の日数』に該当する機能ボタン（ここでは機能4ボタン）をタッチしてください。



〈図：メンテナンス情報表示画面〉

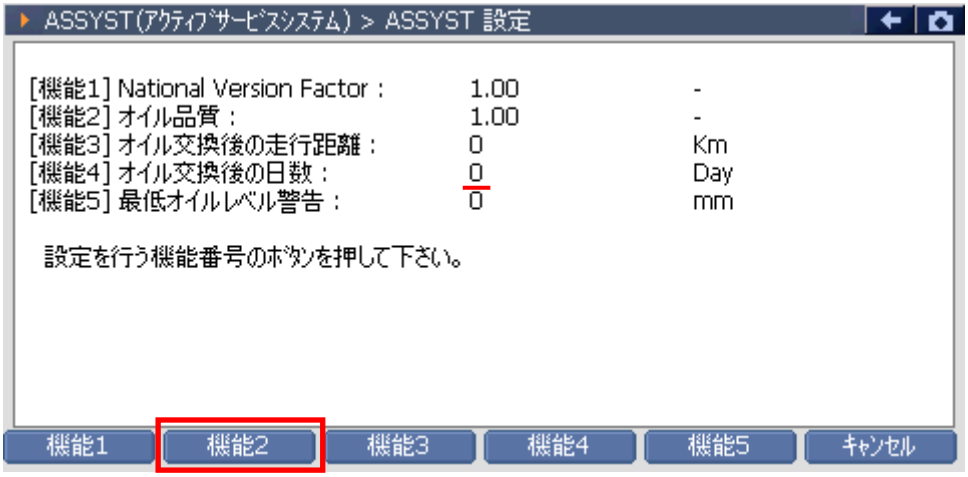
4）オイル交換後の日数設定画面が表示されます。

タッチパネルから「0」を入力し、Ok ボタン又は、Enter ボタンをタッチしてください。設定が反映され、メンテナンス情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の走行距離設定画面〉

5）『オイル交換後の走行距離』が「0 Day」に変更されていることを確認してください。実際に交換したオイル品質を選択しますので、『オイル品質』に該当するボタンをタッチしてください。（ここでは機能2）

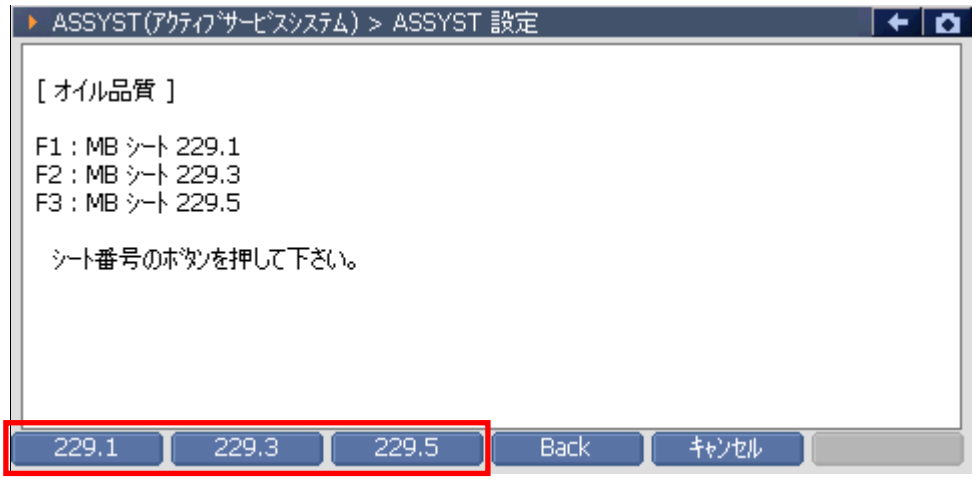


〈図：メンテナンス情報表示画面〉

6）オイル品質選択画面が表示されます。

実際に交換したオイル品質に該当するボタンをタッチしてください。

サービスリセットが開始されます



〈図：オイル品質選択画面〉

7）サービスリセットが正常に終了すると、『実行しました。』と表示されます。

以上でサービスリセットが完了しました。

Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：サービスリセット終了メッセージ〉

※注意と補足※

- **接続車両によっては、G-scan上でのサービスリセットが完了しても 図1 の様にインストルメントクラスタ内の表示がリセットされない場合があります。**

  インストルメントクラスタ内の表示をリセットするには、車両のIG SWを一旦OFFにした後、エンジンを始動して数分経つと図2のようにインストルメントクラスタ内の表示もリセットされます。

〈図1〉

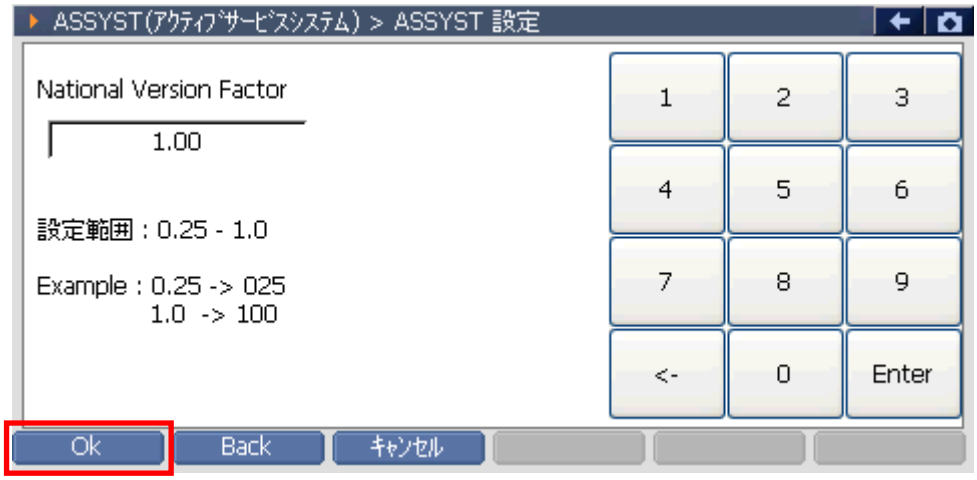
〈図2〉

- サービスリセット実施中のスイッチ類表示灯の点滅または点灯は、車両側との通信状況を表しています。

■ 『National Version Factor』の詳細

・『メンテナンス間隔』を設定できます。

① 『National Version Factor』に該当する機能ボタン（ここでは機能1ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。
設定範囲内（0.25～1.0）の値をタッチパネルから入力し、Ok ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：National Version Factor設定画面〉

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

Back 1つ前の画面に戻ります。

ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

※注意と補足※

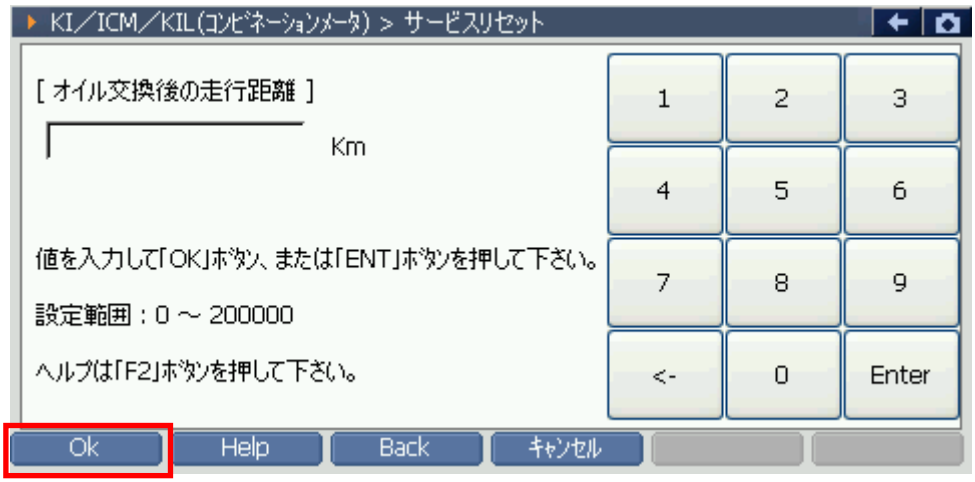
- **通常は「1.0」を設定します。**

■『オイル交換後の走行距離』の詳細

・『オイル交換後の走行距離』を設定できます。

サービスリセットで使用する以外には、誤ってサービスリセットを行った場合に項目値を再設定するために使用します。

① 『オイル交換後の走行距離』に該当する機能ボタン（ここでは機能3ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。
設定範囲内（0～200000）の値をタッチパネルから入力し、Ok ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の走行距離設定画面〉

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

Help 『オイル交換後の走行距離』の設定に関するヘルプ画面を開きます。

Back 1つ前の画面に戻ります。

ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

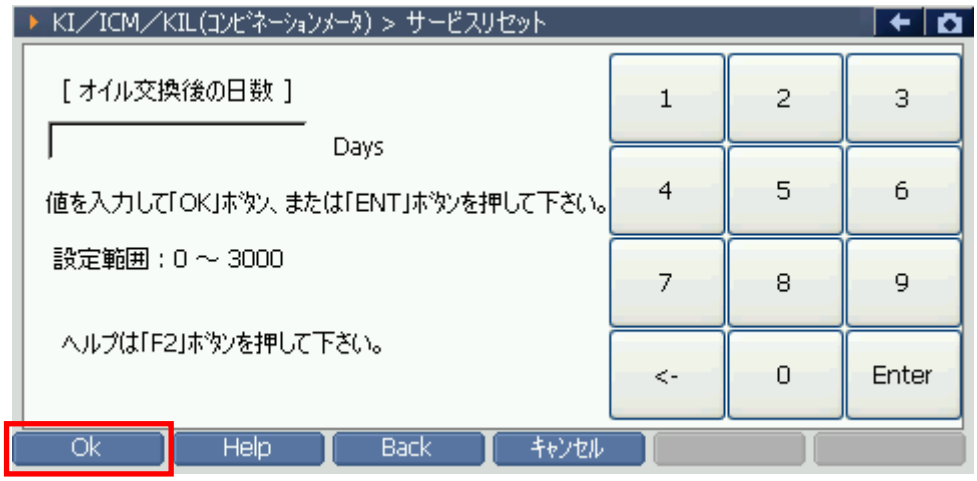
■『オイル交換後の日数』の詳細

・『オイル交換後の日数』を設定できます。

サービスリセットで使用する以外には、誤ってサービスリセットを行った場合に項目値を再設定するために使用します。

① 『オイル交換後の日数』に該当する機能ボタン（ここでは機能4ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。

設定範囲内（0～3000）の値をタッチパネルから入力し、Ok ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：オイル交換後の日数設定画面〉

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

Help 『オイル交換後の日数』の設定に関するヘルプ画面を開きます。

Back 1つ前の画面に戻ります。

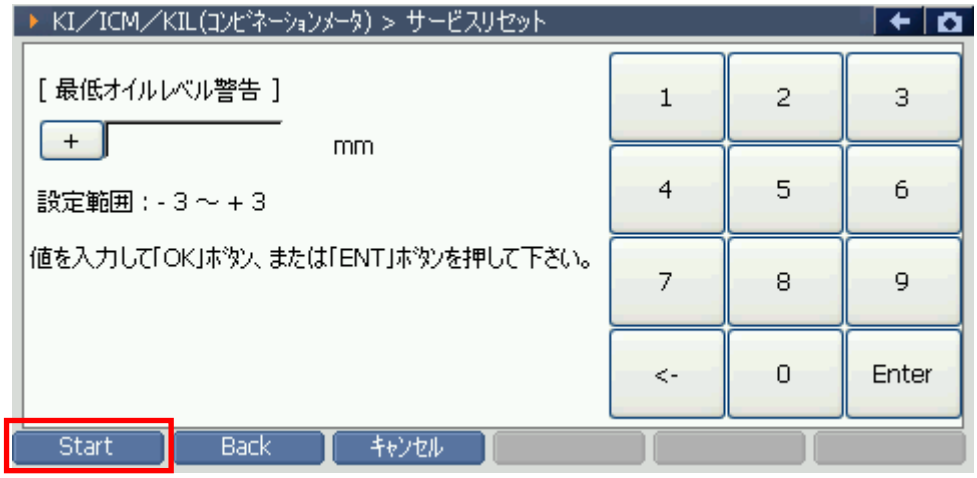
ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

■ 『最低オイルレベル警告』ボタンの詳細

・『最低オイルレベル警告』を設定できます。

① 『最低オイルレベル警告』ボタンに該当する機能ボタン（ここでは機能5ボタン）をタッチしてください。以下の画面が表示されます。

設定範囲内（−3～+3）の値をタッチパネルから入力し、Start ボタンか Enter ボタンをタッチすると設定が反映され、サービスリセット情報表示画面に戻ります。



〈図：最低オイルレベル警告設定画面〉

+ − 符号を切替えます。

<- BackSpaceボタンです。入力した数値を1文字分削除します。

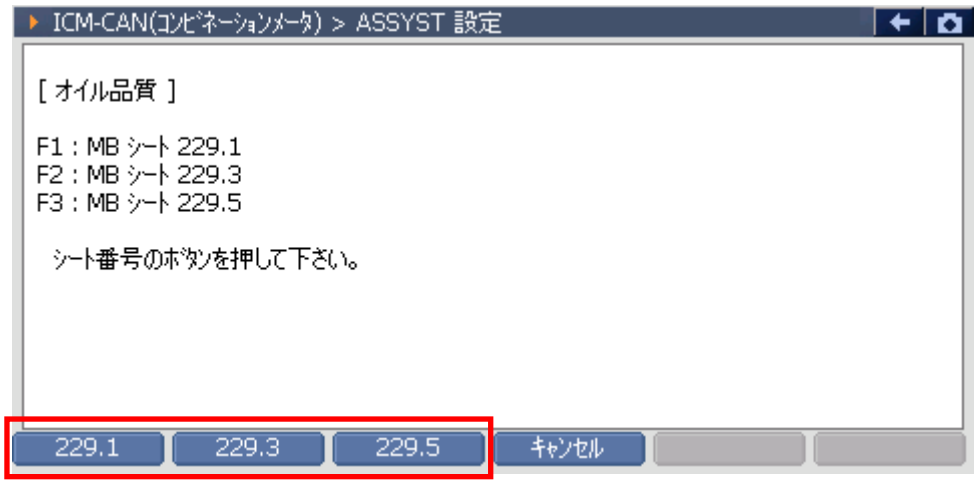
Back 1つ前の画面に戻ります。

ｷｬﾝｾﾙ 診断メニュー画面まで戻ります。

≪サービスリセット　タイプ3の場合≫

1）オイル品質選択画面が表示されます。

実際に交換したオイル品質に該当するボタンをタッチしてください。サービスリセットが開始されます。



〈図:オイル品質選択画面〉

※注意と補足※

・　指定したオイル品質にあわせて次回のメンテナンスランプ点灯までの走行距離が設定されます。

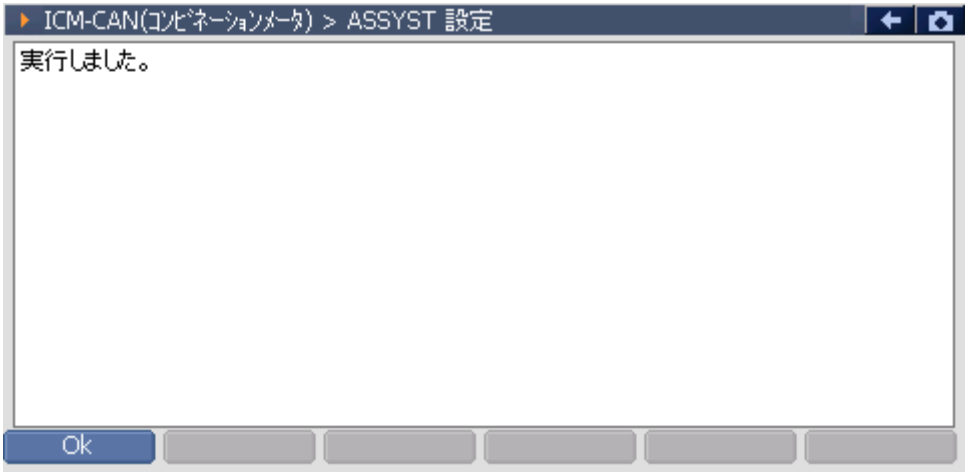
例）　A160（WDB168.033）の場合

オイル品質	次回交換までの残り走行距離
MB　シート　229.1、MB　シート　229.3	15.000Km
MB　シート　229.5	20.000Km

・　シートとはメルセデス･ベンツが発行している『燃料油脂承認済みオイルリスト』のシート番号のことです。各シートにはメルセデス･ベンツにより承認された各オイルメーカーのオイルの製品名が記載されています。

品質の高いほうからシート229.5→229.3→229.1の順になっています。

2）サービスリセットが正常に終了すると、『実行しました。』と表示されます。
CLASS指定が間違っていたり、または、サービスリセットが実行できない車両の場合には『実行できませんでした。』と表示されます。



〈図：サービスリセット終了メッセージ〉

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定機能

診断機能

警告

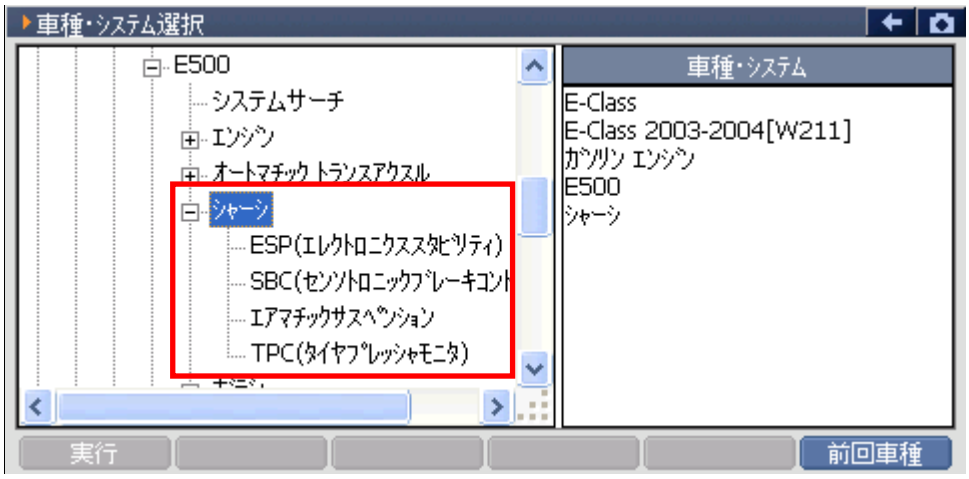
- スタンバイ状態のSBCブレーキシステムは、自動的に短時間高圧を発生することがあるのでメインテナンス/リペア作業の前に必ずシステムの作動を停止する必要があります。
- ブレーキピストンが自動的に作動することにより、身体の一部が挟まれたり、押しつぶされたりして重傷を負う危険があります。
- ブレーキ圧が自動的に上昇するため、高圧下で漏れ出したブレーキ液によって、重傷を負う危険があります。

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定では、SBCブレーキシステムの作動停止/作動開始を設定することが出来ます。

※SBCブレーキシステム搭載車両において、以下の作業を行なう前には必ずSBCブレーキシステムの作動を停止してください。

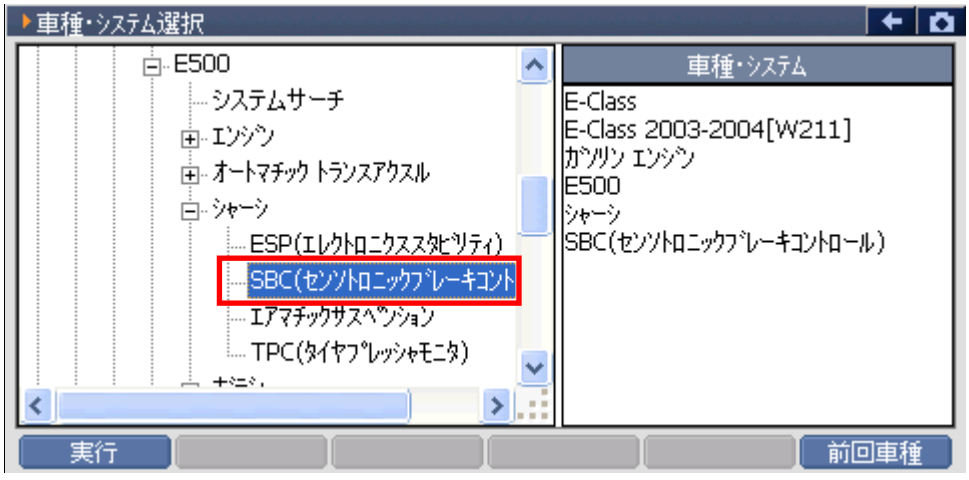
1) ハイドロリックシステムでの作業時。
2) ブレーキパッドを取り外し、または取り付け時。
3) ブレーキキャリパーを交換時。
4) ブレーキディスクを交換時。
5) ブレーキシステムのプレッシャリザーバ取り替え時。
6) ブレーキオペレーションユニットの部品交換時。
7) ハイドロリックユニットの部品交換時。

1）車種・システム選択画面にて『シャーシ』を選択して ENTER ボタンを押してください。システムの詳細が表示されます。



〈図：車種・システム選択画面にてシャーシを選択〉

2）『SBC(センソトロニックブレーキコントロール)』を選択して ENTER ボタンを押してください。通信が開始され診断メニューが表示されます。



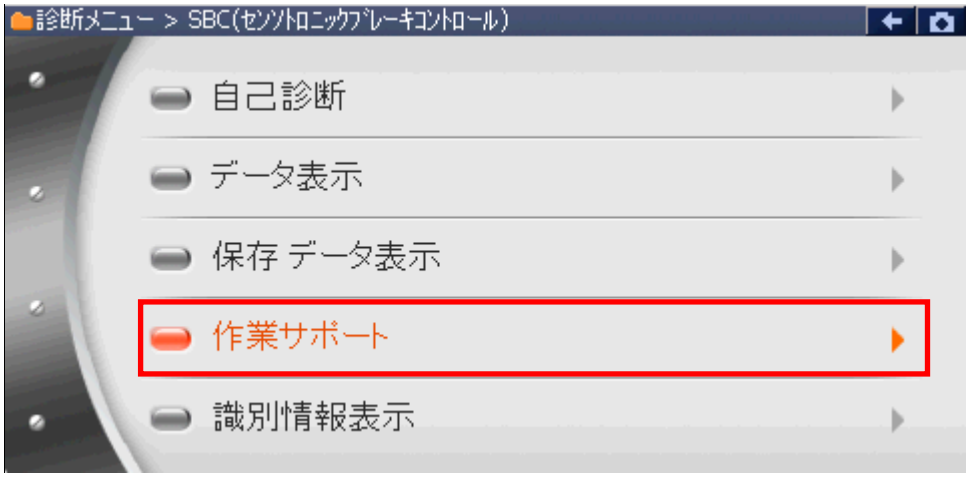
〈図：SBC(センソトロニックブレーキコントロール)選択画面〉

3）『SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)』との通信が開始されると、インストルメントクラスタ内に警告メッセージが表示されたり、メーター類が動きだす事がありますが、故障ではありません。

SBC(センソトロニックブレーキコントロール)設定を正常に終了すれば、終了後に警告メッセージが表示されることはありません。

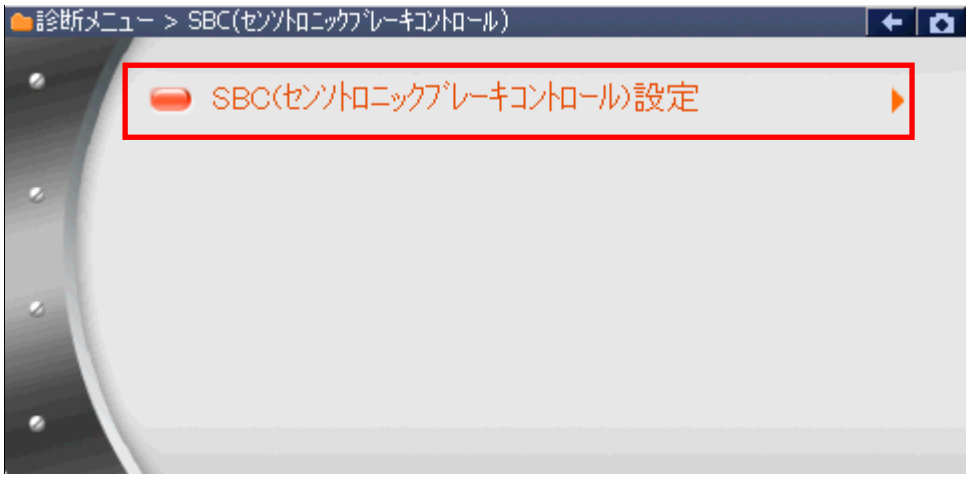
〈図：通信中に表示される警告メッセージ例〉

4）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。

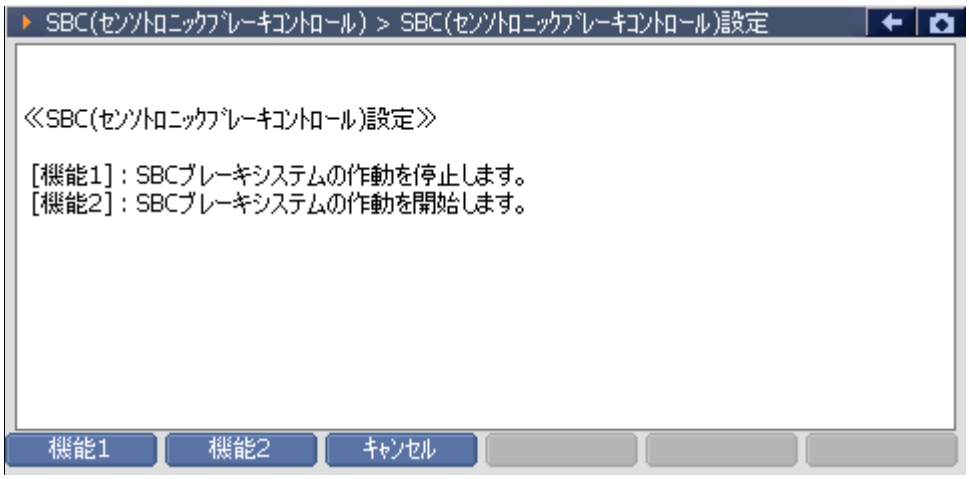


〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

5）診断メニューから『SBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定』を選択して ENTER ボタンを押してください。SBC作動設定画面が表示されます。



〈図：診断メニューにてSBC(ｾﾝｿﾄﾛﾆｯｸﾌﾞﾚｰｷｺﾝﾄﾛｰﾙ)設定を選択〉



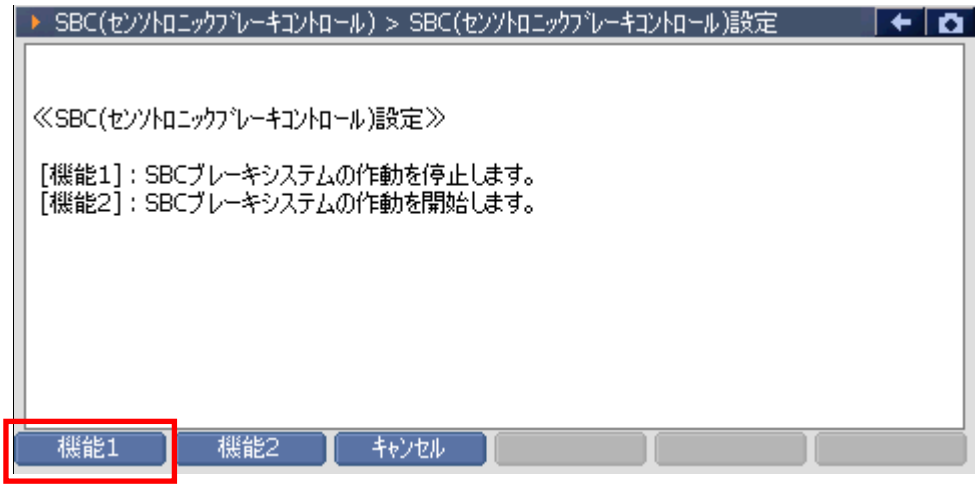
〈図：SBC作動設定画面〉

機能1　SBCブレーキシステムの作動を停止します。

機能2　SBCブレーキシステムの作動を開始します。

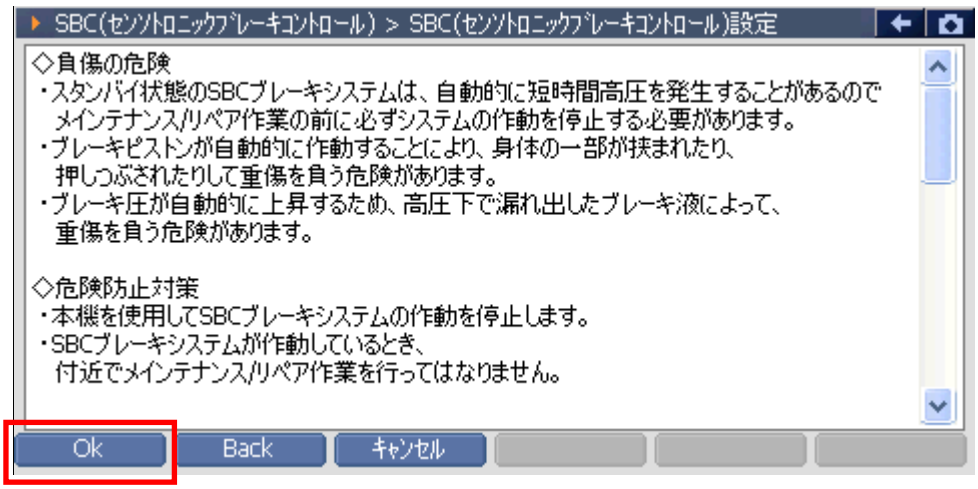
ｷｬﾝｾﾙ　5）の診断メニューに戻ります。

6）SBCブレーキシステムの作動を停止しますので、機能1 ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。警告メッセージ画面が表示されます。



〈図：SBC作動設定画面〉

7）警告メッセージ画面に移りましたら、記載内容を最後までご確認いただき、よろしければ、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。確認メッセージ画面が表示されます。



〈図：警告メッセージ画面〉

Back　6）のSBC作動設定画面に戻ります。

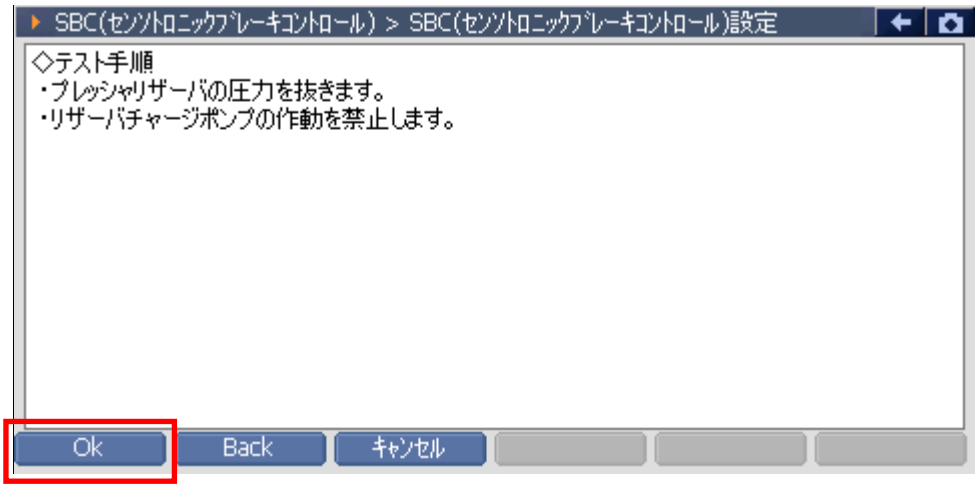
警告

● **警告/確認メッセージは必ず最後までご確認ください。**

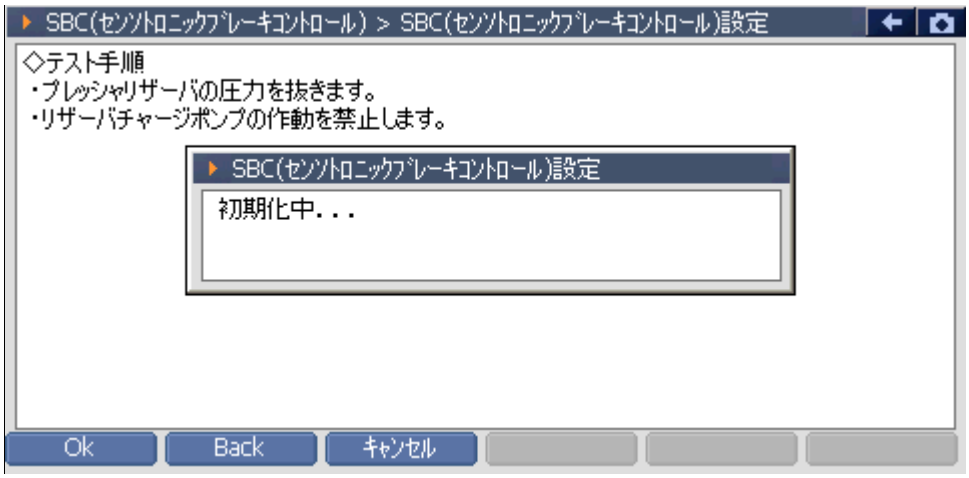
8）確認メッセージ画面に移りましたら、記載内容をご確認いただき、よろしければ、

Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

SBCブレーキシステムの作動を停止するための一連の動作が実行されます。



〈図：警告メッセージ画面〉



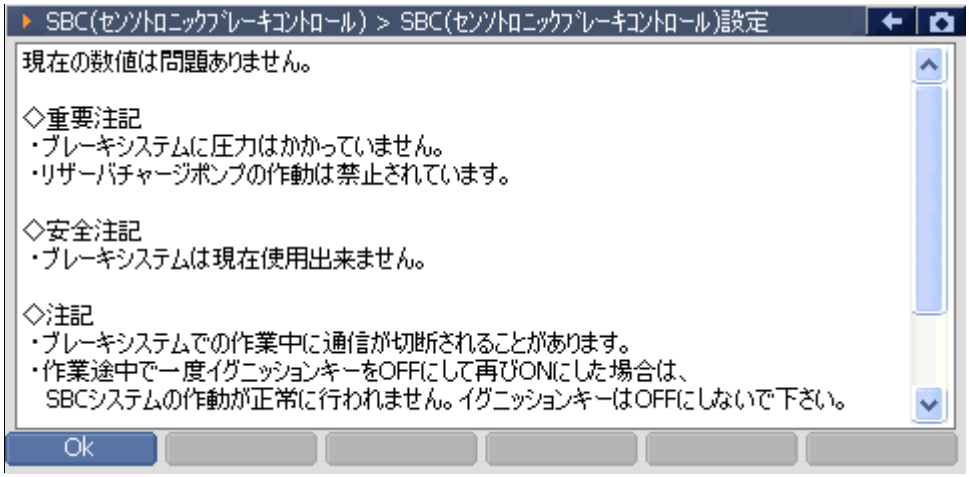
〈図：作動停止実行中〉

9）一連の動作が完了しますと、作動停止完了メッセージが表示されます。必ず記載内容を最後までご確認ください。

SBCブレーキシステムの作動は停止されていますので、この段階で、該当作業を行なってください。（作業中もイグニッションキーはOFFにしないでください。）

※注意と補足※

- ブレーキシステムでの作業中に通信が切断されることがあります。
- 作業途中で一度イグニッションキーをOFFにして再びONにした場合は、SBCシステムの作動が正常に行われません。イグニッションキーはOFFにしないでください。
- 警告メッセージがインストルメントクラスタに表示されています。
  （実際の故障が原因の警告メッセージではありません。SBCブレーキシステムとの通信中に表示されてしまうものです。）



〈図：作動停止完了メッセージ画面〉

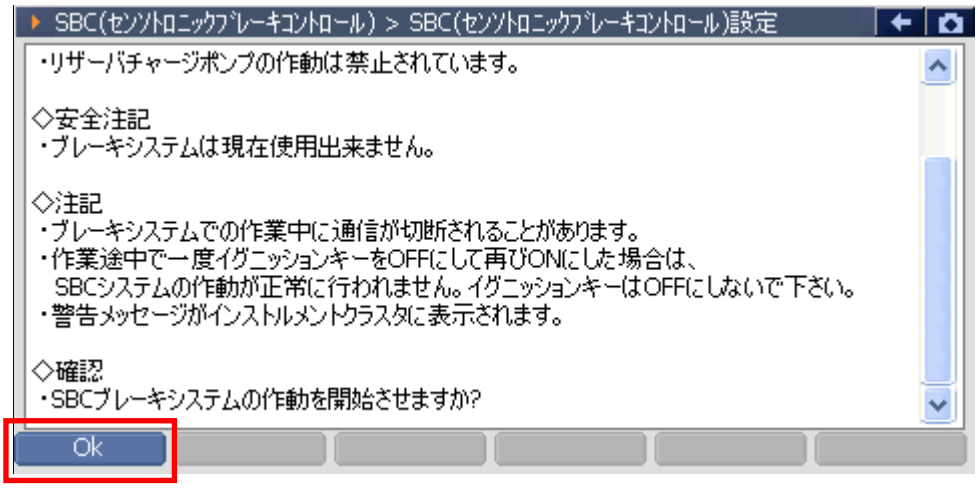
警告

● **作動停止完了メッセージは必ず最後までご確認ください。**

10） 該当作業が終わりましたら、SBCブレーキシステムの作動を開始しますので、

Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

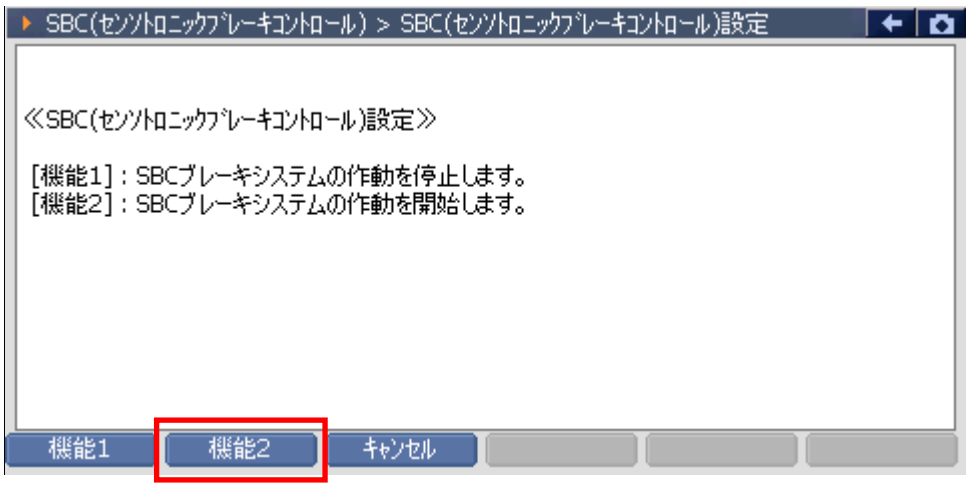
SBC作動設定画面に移ります。



〈図：作動停止完了メッセージ画面〉

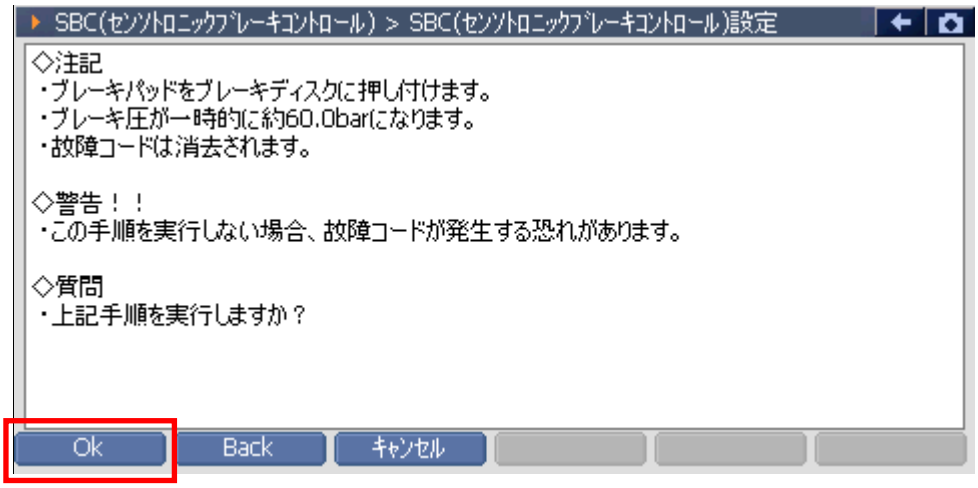
11） SBCブレーキシステムの作動を開始しますので、機能2 ボタンをタッチ、

又は F2 ボタンを押してください。警告メッセージ画面が表示されます。



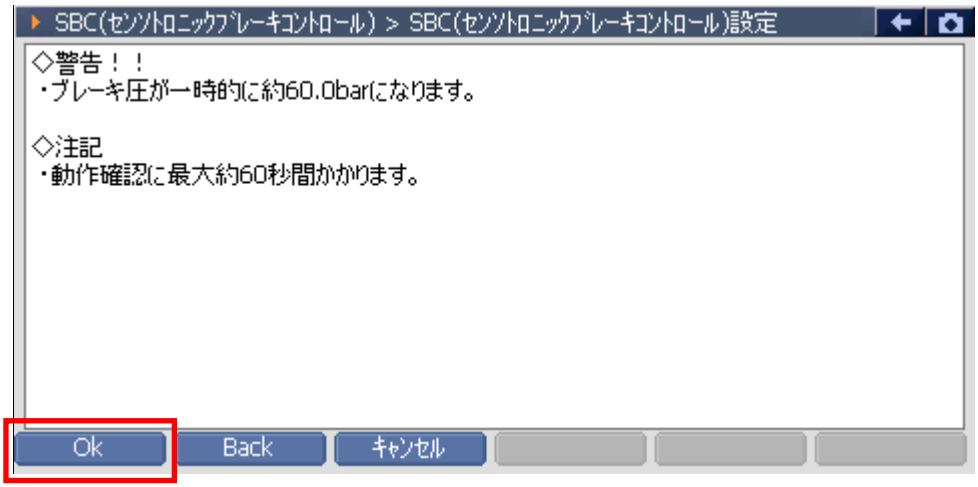
〈図：SBC作動設定画面〉

12） 警告メッセージ画面に移りましたら、記載内容をご確認いただき、よろしければ、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。
SBCブレーキシステムの作動を開始するための一連の動作を実行します。



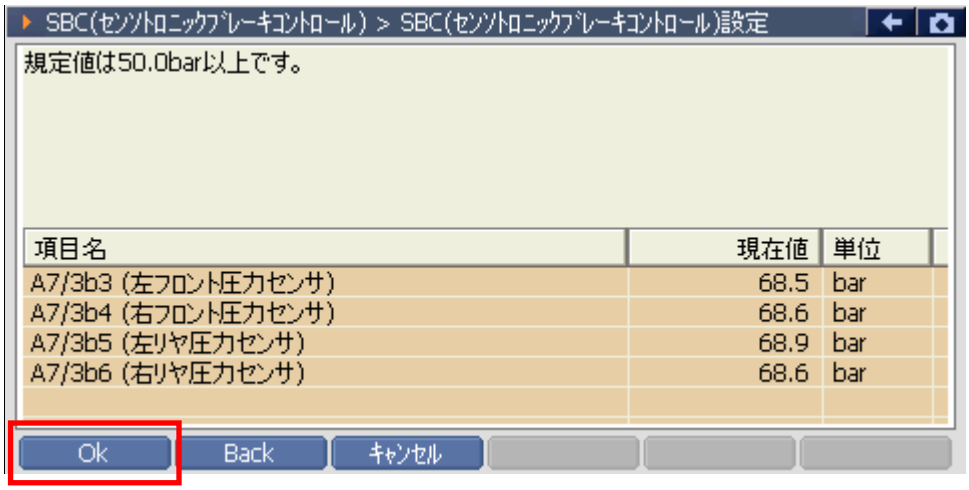
〈図：警告メッセージ画面〉

13） 動作途中で経過確認メッセージ画面が表示されますので、記載内容をご確認いただき、よろしければ、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。



〈図：経過確認メッセージ画面〉

14） 一連の動作が完了しますと、現在値確認画面が表示されます。
各項目の現在値が規定値以上になっていることを確認して、Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

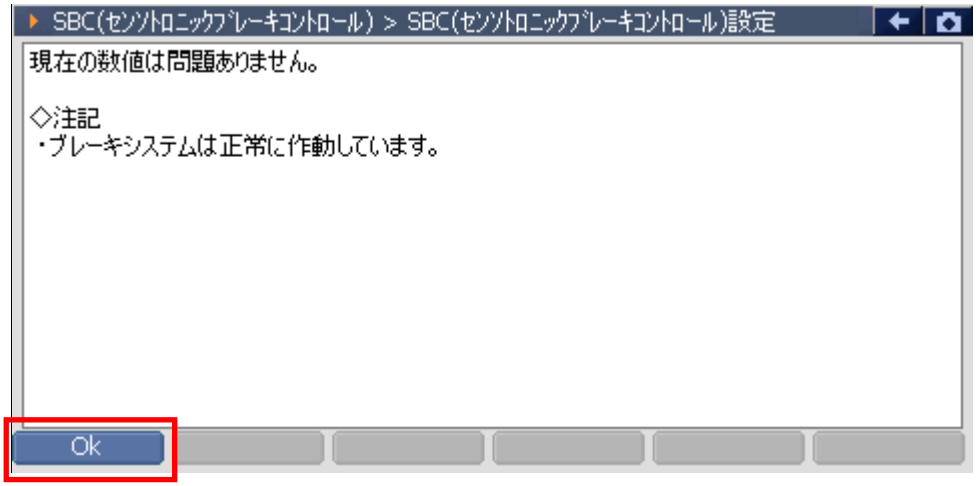


〈図：現在値確認画面〉

※注意と補足※

- 現在値が規定値に満たない項目がある場合は、Back ボタンをタッチして、11）のSBC作動設定画面に戻り、再度SBCブレーキシステムの作動開始を実行してください。

15） SBCブレーキシステム作動開始画面が表示されます。正常にSBCブレーキシステムが作動しています。



〈図：作動開始完了メッセージ画面〉

作業サポート機能

診断機能

警告

- 作業サポートはホンダのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- 作業サポートは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

対応している作業サポート項目の一覧は以下の通りです。

<<エンジン>>

作業サポート項目名	内容
DPF学習	ｺﾝﾄﾛｰﾙﾓｼﾞｭｰﾙを交換後、必ず実施します。
DPF学習(新品時)	DPFを交換した後に初期化、学習が必要になります。
DPF再生	DPF再生を実施します。
インジェクタクラス設定	インジェクタクラスの設定を実施します。
インジェクタ登録	インジェクタを交換し後に実施します。
インジェクタ噴射量調整	インジェクタのIDコードを登録します。
エアインテーク ターボチャージャ初期化	ターボチャージャに関連するセンサ、システムを 交換した後に実施します。
エアフィルタ初期化	エアフィルタを交換した後に実施します。
コモンレール初期化	コモンレールを交換した後に実施します。

〈〈エンジン　続き〉〉

作業サポート項目名	内容
スロットルバルブ アクチュエータ初期化	スロットルバルブを交換した後に実施します。
ホットフィルム式 エアマスセンサ初期化	ホットフィルム式エアマスセンサを 交換した後に実施します。

〈〈オートマチック トランスアクスル〉〉

作業サポート項目名	内容
EGS･EAGリセット	EGS･EAGの学習値を初期化します。
設定値クリア	ATに関する学習値を消去します。

〈〈シャーシ〉〉

作業サポート項目名	内容
SBC(センソトロニック ブレーキコントロール)設定	SBCの設定・解除を実施します。
サスペンション 交互差動周期	サスペンションに関する作動を確認します。
ステアリングアングル センサ校正	ステアリングアングルセンサ校正を実施します。
プランジャストローク センサ校正	プランジャストロークセンサ校正を実施します。
リークテスト	サスペンションに関する作動を確認します。
レベル校正	レベルセンサの作動を確認します。

〈〈シャーシ　続き〉〉

作業サポート項目名	内容
空気圧テスト	サスペンションに関する作動を確認します。
積載調整	車両の積載を調整します。
特殊なエア抜き	通常のエア抜きを実施しても エアが残っている場合のみ実施します。

〈〈ボディ〉〉

作業サポート項目名	内容
MRM コントロールユニット交換	MRMコントロールユニットを交換する時に実施します。
OBF コントロールユニット交換	同じMB番号のコントロールモジュールの交換時に実施します。
TSG コントロールユニット交換	TSGを交換した後に実施します。
アラームサイレン: リセットコーディング	コーディングを実施するコントロールユニット に交換した後に実施します。
コントロールユニットの リセット	コントロールユニットのリセットを実施します。
コントロールユニット交換	コントロールユニットを交換する際に実施します。
チルト･クローズ 機能コーディング	チルト・クローズ機能の作動を確認します。
トランスミッターリセット	トランスミッターキーのリセットを実施します。
限界位置調整	挟み込み防止機能の調整を実施します。

〈〈シート・ドア〉〉

作業サポート項目名	内容
正規化	DCMまたはパワーウインドウモータを交換した時に実施します。
非正規化	DCMまたはパワーウインドウモータを交換した時に実施します。

〈〈インフォメーション・コミュニケーション〉〉

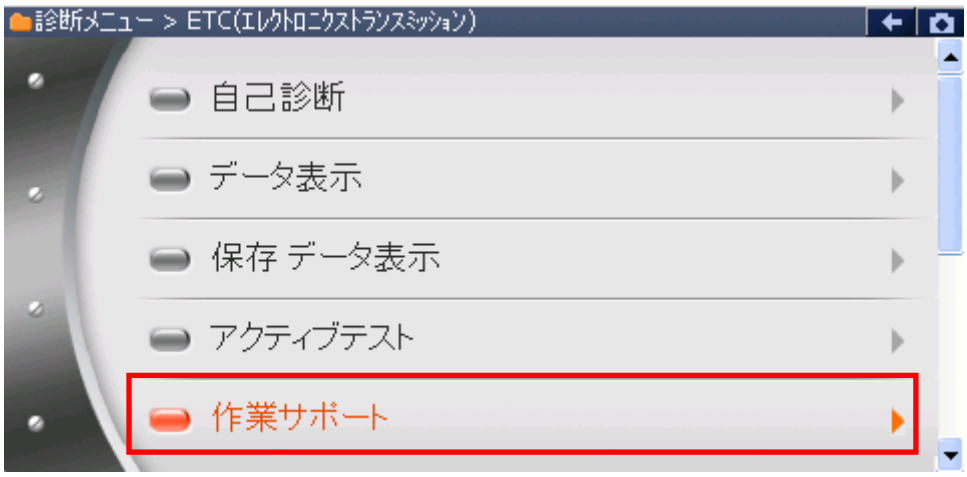
作業サポート項目名	内容
アシスト設定	車両のメインテナンス機能に関する 情報を修正する時に実施します。
オイル交換	オイル交換を実施する際に実施します。
オイル交換のリセット	オイル交換を実施する際に実施します。
サービスリセット	車両のメインテナンス機能に関する 情報を修正する時に実施します。

〈〈エアコン〉〉

作業サポート項目名	内容
MAXCOOL	エアコンの作動を確認します。
アクチュエータモータ学習	アクチュエータモータの学習を実施します。
コントロールモータ初期化	エアコンに関するユニットを交換した場合のみ実施します。
コントロールモジュール リセット	コントロールモジュールのリセットを実施します。
右ヒータ性能テスト	エアコンの右ヒータの作動を確認します。
機能テスト	エアコン機能の作動を確認します。
左ヒータ性能テスト	エアコンの左ヒータの作動を確認します。

ここでは、オートマチック トランスアクスルのETC(エレクトロニクストランスミッション)の作業サポート『EGS・EAGリセット』を例に説明します。

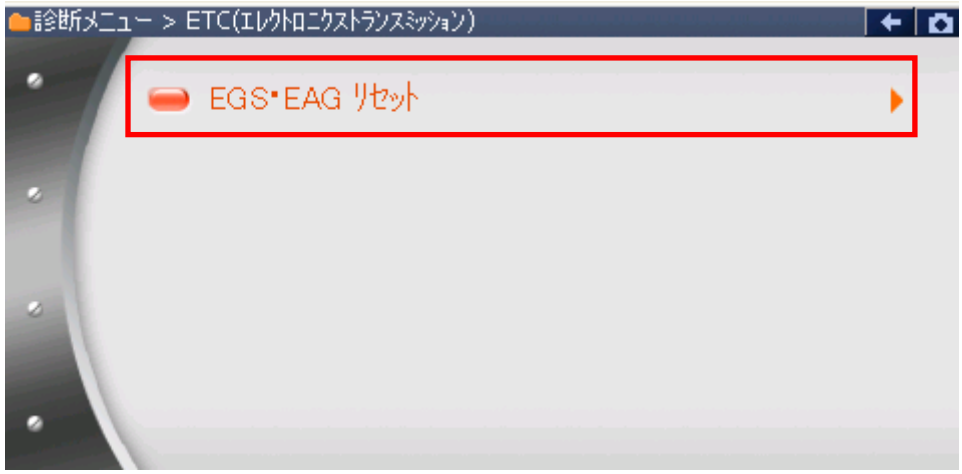
1) 診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図:診断メニューにて作業サポートを選択〉

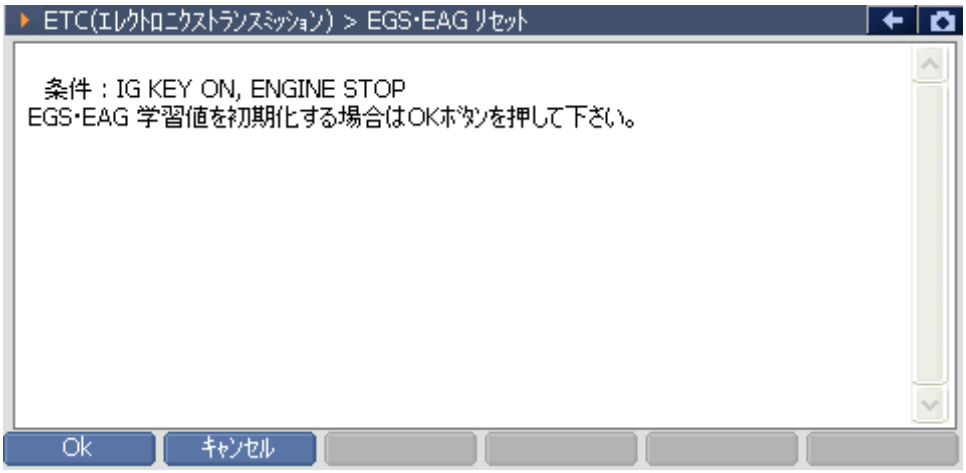
2) 作業サポート項目選択画面が表示されます。

『EGS･EAGリセット』を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図:作業サポート項目選択画面〉

3）作業サポート実行画面が表示されます。画面の指示に従って作業サポートを実行してください。



〈図：ECUリセット実行画面〉

※注意と補足※

- 作業サポートは車両によって対応する項目が異なります。

株式会社 インターサポート

〒310-0836

茨城県水戸市元吉田町329-5

Tel 029-248-0616 Fax 029-248-1609

http://www.inter-support.co.jp

製品保守センター

（修理のお問合せはこちら）

Tel 029-304-0185

サポートセンター

（製品のご相談・ご質問はこちら）

Tel 0570-064-737 （ナビダイヤル※）

Fax 029-304-0167

※IP電話・PHSからはご利用出来ませんので、FAXでお問い合わせください。

2014年2月発行 第17版

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。

G1PZFDN001-10-17